

モモせん孔細菌病の秋季防除情報

平成28年9月2日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

1 発生状況

8月下旬に行った巡回調査（18ほ場調査）において、発病葉率は24.7%（平年10.3%、前年17.9%）で、過去10年と比較して最も高くなっています。

本病が今年多発した原因は、前年の発生量が多かったため、今春の伝染源量が多かったのに加えて、4月から5月下旬に風を伴った降雨があったためであると考えられます。

2 防除対策

- (1) 本病原菌は、新梢の枝病斑（夏型枝病斑、図1）から風雨により飛散して落葉痕等から侵入し、越冬します。これが、翌春に春型枝病斑を形成し、次作の重要な伝染源となります（図2）。そのため、夏型枝病斑は見つけ次第、除去し、ほ場外に持ち出して適切に処分しましょう。
- (2) 越冬伝染源量を減少させるため、表を参考にして収穫後の防除を徹底しましょう。
- (3) 台風等で落葉すると、落葉痕からの感染が多くなるので、台風の通過前に予防散布を実施しましょう。
- (4) 防風ネットの設置、補修を行うなど防風対策を実施しましょう。
- (5) スピードスプレーヤーで防除する場合、薬剤がかかりにくい場所は手で散布するなどして、かけ残しがないようにしましょう。
- (6) 薬剤によっては、高温、多湿時の散布で薬害を生じる恐れがあるため、注意しましょう。
- (7) 収穫中のほ場がある場合、農薬の使用にあたっては、収穫前日数に注意しましょう。



図1 夏型枝病斑

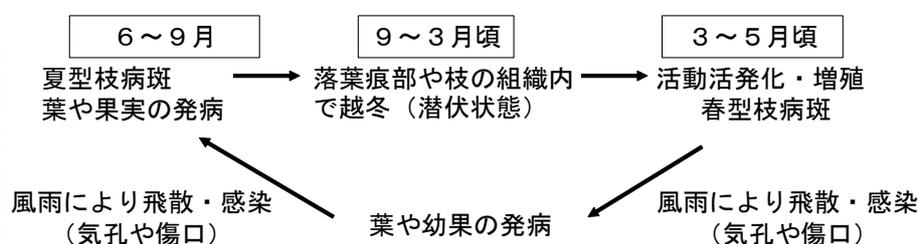


図2 モモせん孔細菌病の伝染環

表 モモせん孔細菌病に対する主な防除薬剤

薬剤名	成分	使用時期	系統	FRAC コード
ICボルドー412	銅	-	無機銅	M1
スターナ水和剤	オキシリニック酸	収穫7日前まで	キノロン	31
チオノックフロアブル/ トレノックスフロアブル	チウラム	収穫7日前まで	有機硫黄	M3
バリダシン液剤5	バリダマイシン	収穫7日前まで	抗生物質	U18
マイコシールド	オキシテトラサイクリン	収穫21日前まで	抗生物質	41

オキシテトラサイクリンを含む農薬には、マイコシールドの他にアグリマイシン-100があるので、総使用回数に注意する。

FRACコードは殺菌剤の作用機構による分類を示します。

FRACコードの詳細は、<http://www.jfrac.com/fracコード表/> を御覧ください。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。